

令和2年度第2回千歳市廃棄物減量等推進審議会（書面開催） 結果概要

日時	-	開始	-	終了	-
場所	-				
出席者数	委員 17 名中 16 名		会議の成立	成立	
途中出席者	-				
途中退席者	-				
書面会議の 開催の概要	<p>○ 資料等の配布 : 令和3年2月 9日（火）</p> <p>○ 「意見書」の回答期限 : 令和3年2月16日（火）</p> <p>※ 期限までに、委員 17 名中 16 名から「意見書」等で回答あり</p> <p>(1) 審議事項</p> <p>① 千歳市一般廃棄物処理基本計画の中間目標年次における取組状況の検証について</p> <p>配布資料</p> <p>① 千歳市一般廃棄物処理基本計画の中間目標年次における取組状況の検証</p> <p>② 千歳市一般廃棄物処理基本計画の中間目標年次における取組状況の検証について（概要版）</p>				
傍聴者	-	-			
報道関係者	-	-			

会議録（要旨） 別添のとおり

## 令和2年度第2回千歳市廃棄物減量等推進審議会（書面開催）会議録（要旨）

### ○ 審議会の成立： 成立

#### 1 議事への意見及び事務局の回答

##### （1）審議事項

- ① 千歳市一般廃棄物処理基本計画の中間目標年次における取組状況の検証について

（委員）

- ・専門収集運搬・処分業者として、改めて3Rの推進を市と連携して取り組むことの重要性を再認識いたしました。

（事務局）

- ・今後も連携して取り組んでまいりたいと考えています。

（委員）

- ・特に意見はありませんが、ゴミ教育の方法を考えたいです。リサイクルやリユースはもちろんですが、子供達にもアイデアをもらって、これからの自分達の地球を守る勉強をして欲しいです。

（事務局）

- ・環境センターの施設見学では、例年700人を超える小学生を受け入れ、主として、出されたごみが処理施設においてどのように処理されるかということや、関連してリサイクルの重要性などを説明することによって、廃棄物処理の側面から環境問題に興味を持っていただいております。この取組を継続するのはもとより、リサイクルを実践してもらえよう趣向を凝らしたものができるよう取組を進めてまいりたいと考えております。

（委員）

- ・「ゴミ」の表記について「廃棄物」「資源物」等に変更いただきありがとうございます。「廃棄物の区分図」も分かりやすかったです。廃棄物の発生状況は、概ね計画通りとのことで良かったです。廃棄物処理手数料も現況通りとのことで良かったです。廃棄物の発生状況が、概ね横ばいか少し減少しているものを、もっと減らすことができれば良いと思います。リサイクルをもっと市民にPRしても良いかと思います。

(事務局)

・今後もリサイクルの推進について、広くPRを行いリサイクル率の向上を目指し、周知・啓発の取組を進めてまいりたいと考えております。

(委員)

・今年度はコロナ禍により、家庭ごみの中でプラスチック系ゴミが全国的に増加していることが報道されています。このことを今回の検証についても考慮する必要がありますがありませんか。

・当初計画よりも多くの収集人口増加が今期もありました。このことで、廃棄物排出量が増えています。人口増加は市にとって良いことですが基本計画や目標数値にどう反映していくのですか。

・市民の協力により、排出原単位の減量率は目標値近くに達しており、市民レベルの努力は十分評価できます。事業系一般廃棄物の減量率は目標値を下回っています。今年度産業廃棄物の取扱量は減少しました。(値上げの影響?)事業系一般廃棄物の減量には値上げが効果的なのでは。事業系の廃棄物の内容を再検討してリサイクルを含めた対策も必要ではありませんか。

(事務局)

・コロナ禍により家庭廃棄物の中でプラスチック系ごみが増加していることについては、令和2年度における全国的な傾向として表れていると考えられますが、今回の平成27年度～令和元年度の検証期間においては顕著な傾向としては表れていないところから、次回の中間見直し時に反映していくことが適当であると考えております。

・計画収集人口が計画値を上回る状況のまま増加を続けていますが、廃棄物排出量の実績は、年度毎に増減を繰り返しておりますが、ほぼ計画どおり抑えられていたことから、基本計画の施策実施による効果があったと考えられますので、新たな数値目標を設定せず、引き続き現行の数値目標に基づく施策に取り組むなかで、目標から乖離することのないよう進めていくことが必要であると考えております。

- ・事業系一般廃棄物の処理手数料の料金改定につきましては、平成 31 年 4 月に実施しており、今後も廃棄物処理原価等の推移を見ながら、次の改定時期などを検討します。事業系一般廃棄物の減量については、焼却対象ごみや破碎対象ごみに再資源化が可能な資源物が一部含まれていることから、現行の施策の取組強化により、減量化や再資源化の促進を図る考えであります。また、現状で把握できていない民間処理施設での再資源化量についても、市の廃棄物処理実績の総再資源化量に反映させていくことにより、正確なりサイクル率の把握に努め、取組全体の検証・施策の推進にあたっていく考えであります。

## 2 その他の意見及び事務局の回答

(委員)

- ・前回の会議の最後で、「道央廃棄物処理組合」について質問し、次回の会議で資料を用意するとのことでしたが、今回の書面会議の中の資料にはなかったので、次の会議でいただきたいです。

(事務局)

- ・資料を準備して、配布します。